



中学生
M1～M3

埼玉県紹介—コバトン人気者—

(“日本語パートナーズ” タイ7期) 加藤 香須美

6月から7月にかけて、中学生には埼玉のゆるキャラを中心に、高校生にはゆるキャラの名前の由来やその地域の名産などを紹介した。まず、県の親分として「コバトン」を紹介。ハト！と一発で当てたクラスもある中で、ペンギンという答えも。春日部市の「はごっち」、さいたま市岩槻区の「もうかりやっ

こ」、加須市「こいのぼりん」、川越市「ときも」、深谷市「ふっかちゃん」、秩父地域「ポテくまくん」、新座市「ぞうキリン」、朝霞市「ぼぼたん」、志木市「カパル」を紹介した。

人気投票では「コバトン」と「ふっかちゃん」が同点1位。かわいい～を連発。



高校生
M4～M6

羽子板、雛人形、こいのぼりなど伝統行事にかかわる工芸が多いので、その後の文化紹介でも埼玉発の文化は大好評だった。川越の紹介では、浴衣を着て街を散策できることに「行きたい」「着たい」と大騒ぎ。カウンター・パートの先生は、国際交流基金の研修で北浦和に来ているときに川越に行くと生徒たちに自慢していた。食べ物やお祭りにも興味津々で、知りたい気持ちが伝わる活気ある授業になった。

中学生の授業では、ゆるキャラを紹介した後でバンコクのゆるキャラをデザインするグループ・ワークをした。埼玉各地の特徴を表していることを理解し、それぞれバンコクの特徴を表すキャラクターを作っていた。

下の写真に紹介されているものはほんの一部だが、ドリアンあり、トムヤムクンあり、ソムタムや伝統人形劇のキャラクターと、多くのキャラクターが誕生した。グループ・ワークに慣れていて、話し合いや役割分担などチーム・ワークを発揮しており、生徒たちから学ぶことも多い。キャラクターのプレゼンテーションも行い投票の結果、一番人気の取れたグループには、メンバー全員に「コバトン」のバッジをプレゼントした。

バンコクのゆるキャラ

